

明日のオフィスの姿を模索する
A quest for shapes of tomorrow's offices



u m l a u t

はじめに

— オフィスの「理由」を探す —

世界各地で猛威をふるうコロナ禍は、さまざまな“人が集まる場所”のあり方を問い直す契機となっています。典型的な“人が集まる場所”であり、私達の多くが人生の長い時間を過ごす空間としてのオフィスも、その重要な一形態です。

今、オフィスは、“行くことのできない場所”か、少なくとも“これまでのようには行けない場所”になっています。

そのために、多くの企業では、リモートワークを重視し、自社オフィスを縮小する動きも生じてきています。それでも私達は、物理的な空間としてのオフィスは、組織の仕事にとって必要であり、これからも必要であり続けると考えます。

オフィスは、これまでのように、いつも当たり前にある、毎日当たり前に通う空間ではなくなりました。オフィスは今、「理由」を必要としています。組織がオフィスを持ち、人がオフィスへ行く、はっきりとした理由が求められています。

このささやかな研究は、「どのようなオフィスであれば、これからも大切な場所として多くの人に利用されるのか？」という問いに、私達なりの、できるかぎり地に足の着いた、具体的な答えを出そうとした営みです。

細部まで血の通ったインテリアデザインをする umlaut という頼もしい研究パートナーを得て、オフィスがその価値を取り戻すための切り口を議論し、描いてみました。まだスケッチに少し肉付けをした段階ですが、多くの方々と意見交換ができれば幸いです。

2021年2月

株式会社アイデアシップ

基本的な考え方

1. 自分たちの場所と思える空間を

これからのオフィスを考えるうえで、オフィスに行きたくなる、オフィスに行くことで帰属意識を確認できるような空間なのか、という視点から『自分たちの場所である』と思える空間を表現することを大切にします。

このようなオフィス空間なら自分たちの場所であると思えるのではないか、という思いで表現しました。

2. ゆるやかにコミュニケーションが取りやすい空間を

リモートワークの拡大によるコミュニケーション不足が問題視されています。また、コロナ禍においては、オフィスにおいてもコミュニケーションが取りにくい空間になってしまうことも想定されます。

私達は、デジタル技術をうまく取り入れながら、ゆるやかにリアルなコミュニケーションが取りやすいオフィスを表現することを意識しました。

3. 健康的なオフィス空間

コロナ禍を受け、日々の生活を健康的に過ごすことがとても大切な時代となりました。

免疫力が低下しないようにするために、身体を動かすことを促したり、自然を感じられるような要素・アイデアを取り入れるなど、健康的なオフィスという視点も表現しました。

本資料では、自然と健康的な働き方ができるよう、WELL Building Standard の要素を取り入れています。

※消毒液の設置やソーシャルディスタンス、マスクの着用、換気といった感染症対策となる要素は、基本的に行われていることを前提とします。

これからのオフィス像

1

デジタルサイネージなどのパーテーションを用いて、いつでもリモート先の同僚や現場と協働できる。

フリーアドレスの作業机。大きなものを扱う際に使用できる。袖の収納に道具も揃っている。

マッピングなどのテクノロジーを用いて、商品のデザインやアイデアを即時に確認・共有できる。

シアター技術などを用いて、会議室などに販売環境や現場のイメージを再現できる。

床のタイルに目盛を入れ、自然と人と人との距離を取るよう促す。

柱にはCMや広告、イメージムービーなどの映像を配置でき、現在発信しているコンテンツを常に身近に感じられる。

「これどうかな？」 「ちょっと聞いてもイイ？」 ができるオフィス

会議室を使うほどではないけれど「ちょっと人の意見を聞きたい」「制作過程を共有したい」「ちょっと確認したい・してもらいたい」「現場の空気を感じたい」そんなシーン、たくさんあると思います。

それを可能にする、社員同士のコミュニケーションと情報共有に特化したオフィスはいかがでしょう？

コミュニケーションの方法はリアルもデジタルもOK!

「密なコミュニケーション」でアイデアを形にしていく。そんなイメージのオフィスです。

WELL 関連項目

V02 デスクの高さ調節

X12β 接触低減

「らしさ」の中で 楽しく働く

自分の関わっている仕事の雰囲気と働いている場の雰囲気、かけ離れているなあ。と思った事はありませんか？ 画一的なオフィス家具の中ではなく、自分の仕事の世界を感じられる中で働くことが出来たら、気分も能率が上がるのではないのでしょうか？ そんな「らしさ」をカタチにしたオフィスはいかがでしょう？

例えば世界各国に拠点や交流のある企業でしたら、世界各地の雰囲気をリアルタイムに感じられる。スポーツに関連があれば、スポーツ器具や動画に日常的に触れられる。また、個人の裁量が大きく、先進的で自由な社風でしたら、オフィスのインテリアもそうであって欲しいですね。

そう、その企業が持つ「らしさ」の中で働くことで、個々の集中力やクリエイティビティーが存分に発揮でき、楽しく仕事ができる。そんなオフィスです。

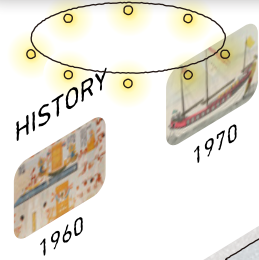
WELL 関連項目

W06 飲料水のプロモーション

X12β 接触削減



壁のモニターでは社の資料映像を展示。10年毎のアーカイブになっている。センターでは模型や道具等、製造に関わる物品や歴史資料の展示。



壁は有機EL透過ガラス・タッチパネルモニター。社員全員の目につく場所での情報共有等が可能。

視聴覚設備の整った、開閉できる広めの会議スペース。未使用時は現場の映像を流したり、フリーアドレスのワークスペース、休憩所として活用できる。

3

その企業の世界観・歴史から ヒントを得る

日本にはモノづくりのお仕事がたくさんあります。モノにはたくさんの物語や歴史があります。それらは他の企業には到底真似できない大切な財産です。

では、それらの世界観・歴史に囲まれたオフィスはどうでしょう？ 温故知新。新しいものを生み出すに当たって、先人たちの作り出したものからヒントを得ることはとても多いものです。また、実際の素材や環境を身近に置くことで、それらが持つ様々な問題やアイデアを発見しやすいかもしれません。

ライブラリーのような空間から様々なイメージを得、未来を想像する。 来客の皆様にも自分たちのヒストリーが伝わり、「こんなものも作っていたんですね」「こんなこともできるんですね」とイメージを広げていただく。そんなオフィスです。

各部屋を繋ぐギャラリー状の長い廊下。展示の順により自然と左側通行になり、距離が取れるよう配慮。先にはカフェ仕様の給湯スペースがあり、飲料などを取りに行く際は必ずここを通ることになる。

ワゴン、ソファ、椅子、ライト、床材などは、例えば造船業であれば客船など実際の現場で使われているもの。

本棚には社のアーカイブ資料等が年代順に整理され、いつでも閲覧できる。

固定のワークスペース。ソーシャルディスタンスが保たれ、また、現場のスケール感を体感できる配置。

WELL 関連項目

- W06** 飲料水のプロモーション
- M02** 自然と場所
- X12β** 接触削減

いつでも白いキャンバスに 絵を描ける

朝、オフィスに着き、机に向かう。全てがきちんとリセットされていて、清々しい気持ちで仕事に取りかかることができる。これ、とても大切です。シンプル・ミニマム・コンパクトに整理整頓されていれば、「これはどこ?」「あれは誰の案件?」といったストレスや時間のロスもありません。また、スッキリした導線のオフィスは、人の流れもスムーズです。

そんなとことん整理整頓されたオフィスはいかがでしょう?

見える場はもちろんのこと、情報なども整理されているのですぐに共有できる。頭の中にも仕事のサイトマップが描け、集中できる。そんなイメージのオフィスです。

WELL 関連項目

- M02** 自然と場所
- M07** 回復スペース
- X12β** 接触削減
- W06** 飲料水のプロモーション
- N01** 果物と野菜

書籍・ファイル類は全てライブラリーに収納。

壁一面共有の収納。大・中・小が整然と並んでいる。どこになにがあるかリスト化され、デジタル上で共有されている。

休憩スペース。飲料、軽食などが揃っており、食事などでもできる。ミーティングも可能。壁面はミニギャラリー。右側から入り、緑化壁に沿って進み、奥で飲料などを入手、ギャラリー壁側を通過してワークスペースに戻る。

スポットライト・サインで入り口、出口、通行方向などが示される。

四方の白壁を活かし、プロジェクターで映像を全方向に投影できる。社内プレゼンテーションや映像会議、デモンストレーション上映などが可能。

デスク前面にはデジタルサイネージなどを使用し、制作中の情報などを随時共有できる。また、自分の好みで自然を感じられる風景や画像を映すこともできる。

大テーブル。制作中の平面・立体などの展示、打ち合わせの場として。あえて椅子は置かず、打ち合わせや会議もコンパクトを目指す。

肩の力を抜いて

本来のパフォーマンスを発揮する

何かを思いつく時、それはどんな場所ですか？
緊張度や圧の高い空間では、本来の自分の力を発揮できないこと、ありませんか？ 時々カフェで仕事するのはなぜですか？ いわゆる「オフィスビル」の中の「ワークデスク」じゃなくても仕事ってできるのではないのでしょうか？

そう、リラックスした空間で肩の力を抜いて、本来のパフォーマンスを発揮する。そんなオフィスはいかがでしょう？

ツルツルの新しいビルではなくて、古民家を改装したり、ヴィンテージビルの再生も良いですね。建造物の保存にも貢献でき、一石二鳥です。

温かみのある建物、グリーンや紙の本、身体を伸ばせる広い空間、大きなテーブル、美味しいお茶の時間が、仕事の助けになる。そんなオフィスです。

WELL 関連項目

- M02** 自然と場所
- M07** 回復スペース
- V08** 身体活動スペースと設備
- N01** 果物と野菜

窓に面したカウンター型のカフェスペース。近隣カフェからのケータリングサービスを利用できる。

壁は一面ポルダリング。実際上ることができる。下にはマット型のソファ。

ガゼボ型のスペース。卓球台にもなる大きなテーブル。壁には窓。吊り下げ型の緑化天井。個人使用、会議室、アミューズメントとフレキシブルかつシンボリックな場。

巨大なラグマットの上には、クッションやヨガマットなど。

ガゼボの外側は本棚。

図書館仕様のリーディングデスク。集中して資料収集やPC作業をしたいときに。

大きめの植木が点在する、まるで屋外のようなカフェスペース。



駅の近くの コンビニエント・オフィス

ローカル駅近の商店街の空きビルなどをフルリフォームしたオフィス。駅近なので飲食店などが充実している。また、子育て世代は、買い物や各種手続きが通勤時にでき、利便性が高い。子どもの立ち寄りも可能。パート雇用などの地域貢献も。



ミニキッチン完備。

各支店とのやりとりのできる、スケルトン&防音のリモートボックス。小さいオフィスなので、話し声などが他者の仕事の妨げにならないよう配慮されている。

白壁を活かした、プロジェクター投影スペース。

ロッカー完備。

しっかりと集中して作業したい人のためのブース型デスク。

休憩スペース。キッズスペースとしても利用可能。

タッチパネル。進行中の仕事の状況などを表示。双方向で会話も可能。

本や資料、雑誌なども。

移動と収納のできるフレキシブルなデスク。

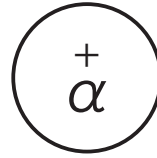
コロナ禍において、誰もが感じたこと。それは、「都心の一等地のオフィスへの通勤が必要？」でも「家では仕事がしづらい」。そもそも、ここまでPCやリモートが発達すると、社員全員が1箇所に集まる利点はそれほどありません。むしろ、いくつかのローカル駅の近くに小さめのオフィスがあったらどうでしょう？「ローカル駅」の「駅近」がポイントです。

「駅」の周りには大抵便利なものが揃っています。いざ対面のことが必要な時でも、駅近です。災害時にもオフィスが分散している良さがあります。もちろん通信インフラなどは最大限整えます。自分の自宅から通いやすい駅の駅近オフィス。通勤時間の圧倒的短縮と通勤ストレスからの解放。仕事のものは全て揃っていて家より集中できる。これからのオフィスの1つのカタチだと思います。

WELL 関連項目

C10 家族のサポート

C15 緊急時のレジリエンスと回復



これからのオフィスの ベーシックアイテムの例

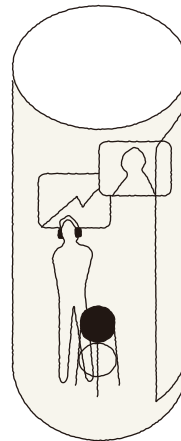
コロナ禍の生活様式アイテム

消毒・検温・手洗いなど
日常的なコロナ禍の生活様式アイテム



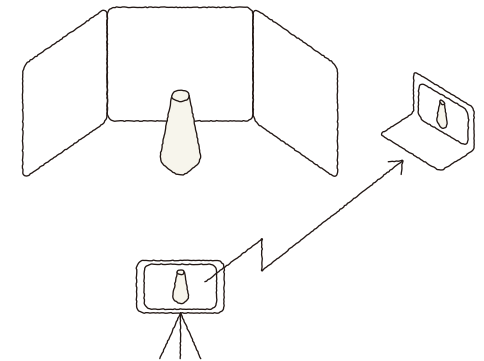
リモートスペース

話し声や音声が隣席の方の邪魔にならないよう
個々のリモート会議等の際に使える防音スペース
プレゼンテーション動画などの録画スペースとしても



撮影ブース

「さっと撮って SNS にあげる」
「制作途中のものを社内で共有する」
撮影から配信までが簡単にできる固定のブース。



WELL 関連項目について

- 本資料で示しました「WELL 関連項目」は、当社が健康的な建築物や屋内空間づくりを支援するために活用している WELL Building Standard (※) に関わる評価項目です。
- WELL Building Standard には、空気、水、栄養、光、運動、温熱快適性、音、材料、こころ、コミュニティ、という 10 のコンセプトで構成されています。本資料では、オフィスの価値を描く中で無理なく取り入れられる要素を掲載しました。
- 本資料で描いた各項目の内容は、以下の通りです。もし、詳しい情報をお求めの場合は、お問い合わせください。

掲載した WELL 関連項目		主な内容	
水 Water	W06	飲料水のプロモーション	ウォーターサーバーを従業員が利用しやすい場所に 1 つ以上置き、水分摂取を促す。
栄養 Nourishment	N01	果物と野菜	果物と野菜を少なくとも 2 種類提供し、従業員の食生活をサポートする。
運動 Movement	V02	デスクの高さ調節	執務空間の座席数のうち 25% 以上は、立位と座位の両方で作業ができるように、机の高さ調節を可能とすることで、座りっぱなしの作業を抑制する。
	V08	身体活動スペースと設備	フィットネスなど運動スペースをレイアウトすることで、運動不足を解消する。
材料 Materials	X12β	接触低減	共用空間（エレベーターホールや受付、建物入口、廊下、執務空間、会議室など）での人との距離をとる戦略をたてる。 多数の人が接触する部分（ドアノブ、照明スイッチ、机、いす、エレベーター、蛇口、石鹸、ペーパータオル、ゴミ箱、手すり、コピー機など）は、ハンズフリー構造と消毒などの衛生サポートの組み合わせで対応する。
こころ Mind	M02	自然と場所	執務空間や会議室などに自然を感じられるものを配置する。
	M07	回復スペース	仕事中に精神的疲労やストレスから回復できるスペースを設ける。
コミュニティ Community	C10	家族のサポート	従業員やその配偶者などの子育てをサポートするための柔軟な働き方を提供する。
	C15	緊急時のレジリエンスと回復	緊急時に備えてリモートワークのためのサポートを含めて BCP を策定する。

(※) WELL Building Standard は、人々の健康とウェルネス、ウェルビーイングに焦点を合わせたビルト・エンバイロメント（建築や街区の環境）の性能評価システムで、米国の民間団体である IWBI（International WELL Building Institute）が運用しています。
当社は IWBI の Cornerstone member です。

参照) IWBI ホームページ : International WELL Building Institute (wellcertified.com)

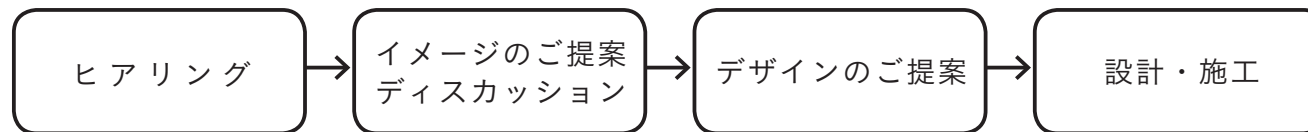
プロセスのイメージ

私たちは、その企業様にとってどのような「場」が、今後のオフィスとして最適か。社員の皆さんが健康に楽しく仕事ができるか。一緒に考え、創っていきたいと考えています。

もし、資料の絵の中に「気になる」ものがあれば、そこから膨らませていきましょう。

もし、言葉や絵にはできないけれども、もやもやとしたイメージがあるのであれば、是非お聞かせください！

十分なヒアリングのもとに、アイデアを共有しながら、オフィスのイメージ構築、実際のデザイン、設計・施工までをサポートさせていただきます。



自分達に最適な空間で、快適にお仕事ができるよう、一緒に考えていきましょう。

お目通しいただき、誠にありがとうございました。

[本資料についてのお問い合わせ先]

大柴 研太 (WELL AP)

oshiba@ideaship.info

070-4388-1702

株式会社アイディアシップ

〒266-0005 千葉県千葉市緑区誉田町2-11

Tel: 043-309-7509 Fax: 043-309-7524

<http://www.ideaship.info/>

本資料の文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。

© 2021 ideaship Inc. & umlaut Co.,Ltd.